

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・~~通信~~）

事業者名：株式会社ニチイ学館

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画		
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	6時間	1 職務の理解
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3	(1) 講義及び演習：介護保険と保険外サービスについて講義を行い、演習では身近なサービスについてグループ討議を行う。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3	(2) 講義及び演習：居宅・施設サービス提供現場の実際について講義を行い、演習ではDVDの事例からグループ討議を行う。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	5.5	(1) 通信講習・講義及び演習：人権と尊厳について講義を行い、演習では尊厳を支えるということはどういうことか等、グループ討議を行う。
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3.5	(2) 通信講習・講義及び演習：自立に向けた介護について講義を行い、本当の自立支援というのとはどういうことかについてグループ討議を行う。
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	6時間	3 介護の基本
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	2	(1) 通信講習・講義及び演習：介護職の役割、専門性と多職種について講義を行い、家族による介護と専門職による介護の違いについてグループ討議を行う。
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	1	(2) 通信講習・講義及び演習：介護職の職業倫理について講義を行い、演習では介護職としての社会的責任などについてグループ討議を行う。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	2	(3) 通信講習・講義及び演習：介護における安全の確保とリスクマネジメントについて講義を行い、演習では手洗い方法やガウンテクニックの体験を行う。
(4) 介護職の安全		(4) 同左	1	(4) 通信講習・講義及び演習：安全について講義を行い、演習では腰痛予防体操の体験を行う。

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 同左	4
(2) 同左	2
(3) 同左	3
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	3
6 老化の理解 6時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	3
7 認知症の理解 6時間	
(1) 同左	1.5
(2) 同左	1.5
(3) 同左	1.5
(4) 同左	1.5

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1)	通信講習・講義及び演習：介護保険制度について講義を行い、演習では福祉用具貸与が生活に与える影響についてグループ討議を行う。
(2)	通信講習・講義及び演習：基本的な考え方などの講義を行い、演習ではノーマライゼーションの実現に向けて必要な取り組みについてグループ討議を行う。
(3)	通信講習：医療との連携とリハビリテーションについて演習では介護施設の種類別に看護職員と介護職員の連携が重要な理由についてテキストを用いて学習する。
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1)	通信講習・講義及び演習：基本ポイントについて講義を行い、演習では言語的・非言語的コミュニケーションの体験を行う。
(2)	通信講習・講義及び演習：記録や報告の重要性等について講義を行い、演習では記載方法を体験し、内容・方法について、討議・発表を行う。
6 老化の理解	
(1)	通信講習・及び演習：老化に伴うこころとからだの変化について講義を行い、演習では感覚機能の低下によっておこる生活への影響とその対策についてグループ討議を行う。
(2)	通信講習・講義及び演習：高齢者と健康について講義を行い、演習では筋骨格系の疾患予防についての身近な取り組みをグループ討議を行う。
7 認知症の理解	
(1)	講義及び演習：ケアの理念などについて講義を行い、演習ではパーソン・センタード・ケアの記録方法の体験を行う。
(2)	講義及び演習：講義において認知症への理解を深め、演習では日常生活場面においてBPSD症状が現れる背景についてグループ討議を行う。
(3)	講義及び演習：認知症利用者の生活障害などについて講義を行い、演習ではロールプレイにて具体的な関わり方への体験を行う。
(4)	講義及び演習：家族への支援について講義を行い、演習では家族が認知症になったことを想定し、グループワークを行う。

別記第1号の2様式

8 障害の理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75時間
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3時間
(1) 同左		0.5
(2) 同左		1.5
(3) 同左		1
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75時間
ア 基本知識の学習		11.5時間
(1) 同左		3.5
(2) 同左		4
(3) 同左		4
イ 生活支援技術の講義・演習		52.5時間
(4) 同左		4
(5) 同左		4
(6) 同左		7
(7) 同左		7
(8) 同左		7
(9) 同左		7

8 障害の理解		
(1) 講義及び演習：障害の基礎について講義を行い、演習では概念やICFについてグループ討議を行う。		
(2) 講義及び演習：障害の医学的側面などについて講義を行い、演習では視覚及び視覚障害を設定したロールプレイを行う。		
(3) 講義及び演習：障害者家族への支援について講義を行い、演習では障害者(児)の自立を支える社会資源についてグループ討議を行う。		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1) 通信講習・講義及び演習：介護の基本的な考え方について講義を行い、演習では自分自身をICFの分類方法で分析する体験を行う。		
(2) 通信講習・講義及び演習：ころのしくみについて講義を行い、演習では「生きがい」を再発見するための具体的方法についてグループ討議を行う。		
(3) 通信講習・講義及び演習：からだのしくみについて講義を行い、演習ではバイタルチェックの体験を行う。		
イ 生活支援技術の講義・演習		
(4) 通信講習・講義及び演習：家事と生活の理解について講義を行い、演習では疾病別の献立作成のグループワークを行う。		
(5) 通信講習・講義及び演習：居住環境の基礎知識について講義を行い、演習では身近なユニバーサルデザインについてグループ討議を行う。		
(6) 通信講習・講義及び演習：整容の意義について講義を行い、着脱介助実技体験を行う。		
(7) 通信講習・講義及び演習：移動・移乗に関するからだのしくみについて講義を行い、移乗・移動介助の実技体験を行う。		
(8) 通信講習・講義及び演習：食事の意味や環境整備の方法について講義を行い、食事介助の実技演習を行う。		
(9) 通信講習・講義及び演習：入浴や清潔の意味や環境整備の方法について講義を行い、全身清拭や部分浴の実技演習を行う。		

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	
介護実習 ○時間	
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	
在宅サービス提供現場見学 ○時間	
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り 4時間	
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計 (130時間)	

(10) 同左	7
(11) 同左	7
(12) 同左	2.5
(実習) [※] 時間	
ウ 生活支援技術演習 11時間	
(13) 同左	4.5
(14) 同左	6.5
10 振り返り 4時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	1
計 (130時間)	

(10) 通信講習・講義及び演習：排泄の意味や環境整備の方法について講義を行い、実技演習により排泄の介助方法等の体験を行う。
(11) 通信講習・講義及び演習：睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法について講義を行い、ベッドメイキングや体位変換の実技演習を行う。
(12) 通信講習・講義及び演習：ターミナルケアの考え方や留意点について講義を行い、介護職の役割や対応方法の実技演習を行う。
(実習) [※]
ウ 生活支援技術演習
(13) 通信講習・講義及び演習：介護過程の目的や意義について講義を行い、個別援助計画の作成演習を行う。
(14) 通信講習・講義及び演習：事例の意義や留意点について講義を行い、演習では事例(要支援2程度・片麻痺)に基づき討議し、実技演習を行う。
10 振り返り
(1) 講義及び演習：講義にて研修での学び振り返り、今後継続して学ぶべきことなどの討議をした後、発表を行う。
(2) 講義及び演習：ターミナルケアの考え方や留意点について講義を行い、演習にて、キャリアパスをふまえた自分のこれからの目標を発表し就業への準備を行う。

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。